

教員研修モデルカリキュラム開発プログラムの 委嘱年度終了後の連携・協働について

当センターの教員研修モデルカリキュラム開発プログラムは、大学と教育委員会が連携・協働して、研修カリキュラム等を開発・実施し、その成果を教員研修カリキュラム等のモデルとして全国に提示することにより、教員研修の一層の充実・強化を図ることを目的とした事業です。

本事業の委嘱年度終了後の連携・協働について、これまでの委嘱先の中から一部の大学・教育委員会にお聞きし、まとめたものをご紹介します。

岩手大学（H22委嘱）

○テーマ

(H22)若手教員を対象とした小・中学校連携による協働的研究プログラム開発

～英語指導を中心に～

〔小・中学校教員が協働で、英語絵本の読み聞かせを取り入れた小学校外国語活動の授業をつくり上げることなどを目的とした教員研修を実施。〕

○成果

小・中学校教員混成の4～5人グループを編成し、授業づくりについて活発な意見交換が行われた。英語絵本を教材とすることで「読み聞かせが小学校英語と中学校英語の橋渡の活動となることを実感した」等のコメントから、小・中学校両方の教員にとって効果があると受け止められた。また、子どもたちの思考活動（考える、予想する）のため、「『待つ』『時間を保証する』という“間”が、子どもの主体性を引き出すことを忘れないようにしたい」等のコメントから教師としての力量を高める研修となった。

◎委嘱年度終了後(H23～)の連携・協働

H22年度連携教育委員会であった盛岡市の他、久慈市及び奥州市教育委員会主催の教員研修会、岩手県及び青森県教育委員会主催のALT・JTE指導力向上研修会において、開発成果を活かして小学校・中学校教員混成のグループ・ワークや英語絵本を用いた研修を実地したり、開発研究で得られたデータや知見を紹介している。同一学区内での小中学校教員の交流による子ども理解の深化、教員やALT/JTEの指導力向上に役立させている。

また、10年経験者研修や附属小学校公開授業において、英語絵本の活用の仕方、小学校外国語活動と中学校・高校の英語教育の橋渡しと教授法の再考、一つの絵本を異なる角度から取り扱った授業の提案など、教員に様々な教授法・教材開発の方法を発信している。

新潟大学（H23委嘱）

○テーマ

(H23) 読書指導カスタンダードに基づく読書指導教員研修プログラムの開発

読書指導のできる教員の研修が重要になってきており、その資質基準を示した「読書指導カスタンダード（国際読書学会の読書指導の教師のためのスタンダードや全米教職専門基準委員会のリテラシー：読書—言語技術科スタンダード等を参考に、新潟大学 足立幸子氏が我が国の教師向けに開発したもの）」に基づいた教員研修を実施。

○成果

読書指導カスタンダードに基づくチェックリストにより、研修の参加者は自分の読書指導力の現状について分析し、目標を確認しながら指導力向上を図ることができた。新潟大学を中心とした教員研修を通して、受講者である教員が新潟市立図書館の教員サポートの取組を、また、図書館側が教員の取組を理解した。

◎委嘱年度終了後(H24～)の連携

平成19年度教員研修モデルカリキュラム「知識社会を支える読書力育成の読書指導教員研修プログラムの開発」により、新潟大学と新潟市教育委員会、新潟市立図書館、読み聞かせボランティアグループ等との連携を継続し、平成23年度のプログラム開発に至っている。

平成24年度にも、本プログラムで得た連携や研修内容を通して、新潟市教育委員会主催（新潟市立図書館豊栄図書館学校図書館支援センター主管）「学校図書館活用研修 リテラチャー・サークルの講義と演習」、新潟市教育委員会主催（新潟市立総合教育センター主管）「『読書活動の充実』研修」などの教員研修講座が開催された。受講者からは、研修で知った具体的な読書指導法を授業に取り入れていきたい等の意見をいただき、研修の成果があった。

滋賀大学（H22～23委嘱）

○テーマ

(H23) 子どもの健やかな成長をはぐくむ睡眠教育研修カリキュラムの強化と発展化

(H22) 幼・小・中学校における睡眠教育研修モデルカリキュラムの開発

睡眠教育を基本的な生活習慣の形成につなげるため、学級活動や総合的な学習の時間における教材・教具、指導案などを開発。

○成果

教職員が睡眠の科学的知識や睡眠教育の必要性を認識できた。睡眠の科学を保育や授業に取り入れていくため、幼・保・小・中学校の各発達段階に即した睡眠教育のための教材・教具や指導案を具体的に作ることができた。

◎委嘱年度終了後(H24～)の連携

今回開発した睡眠教育プログラムを新たに県内の近江八幡市教委員会に紹介し、市教委主導のもとに睡眠教育研修を進めていただいた。その結果、教員ならびに保護者の睡眠に対する意識が高まると同時に、児童生徒に向けた睡眠教育を実践することができた。今後さらに市内の多くの学校で展開される予定である。

また、睡眠教育プログラムの開発モデル市（草津市）においては、モデル校の実践を参考に幼稚園単独でPTAと連携して睡眠教育研修を展開することができた。

さらに、教員研修センターのHPを閲覧した愛知県、三重県、大阪府の教育委員会ならびに学校から睡眠教育研修モデルカリキュラムについての問い合わせがあり、来学いただいたり先方へ出向いたりして内容について説明を行った。来年度の研修事業に本プログラムを位置付けるとのことである。

奈良教育大学（H23委嘱）

○テーマ

(H23)「教員のICT活用指導力」向上を目指す研修指導者養成のための研修モデル・カリキュラムの開発

子どもたちの情報活用能力の向上を図ることを目指し、教員が効果的にICT機器を活用した授業を行うため、研修担当教員を対象とした指導者養成研修を実施。

○成果

校内研修でのワークショップの進め方についての演習を行い、受講者の属する学校で実践し、その留意点を検討するなどにより、効果的な校内研修のあり方について体験することができた。受講者は、現場教員用に簡易マニュアルを自主的に作成するなど、研修指導者として現場の状況をしっかりと捉え、学んだことを伝えた。

◎委嘱年度終了後(H24～)の連携

平成23年度の成果等を県内に広めるため、市町村教育委員会情報化推進担当者の連絡協議会が開催された。奈良県教育委員会と大学との教育に関する包括連携のもと、連絡協議会における各種研修会や校内研究活動において、大学が教育委員会と連携した支援活動（ICT活用指導力向上のための研修内容の相談や講師派遣など）を展開している。

関西国際大学（H23委嘱）

○テーマ

(H23) 特別支援教育の考えを取り入れた現場往還型研修による授業力向上プログラム

特別支援教育コーディネーター研修の充実・見直しとともに、特別支援教育の考えを取り入れ、教員の授業力向上を図るため、学級経営、個別指導等について、専門家が助言を行う巡回相談事業等を実施。

○成 果

特別支援教育の視点から子どもたちを観察指導することで、すべての子どもの心の安定を図るとともに、良好な人間関係作りに取り組む必要があるとの考えに基づき、大学教員が学校のニーズに応じた巡回相談を行った。「特別支援教育の知見を生かした指導が、通常の学級での対応方法に有効であることを学んだ」等の多くの意見があり、巡回相談の重要性が明らかになった。

◎委嘱年度終了後(H24～)の連携

本プログラムの成果が、学級担任の活用を目的としたリーフレットにまとめられ、校内研修や小中連携が進められている。尼崎市教育総合センターの研修において、関係大学教員が学校現場の状況を十分に踏まえた指導を行い、研修の充実が図られている。巡回相談は開発年度までであったが、関係大学教員は各学校の求めにより相談に応じている。